

## テーマ決定の難しさ

私が高校生のとときの得意科目は現代文でした。もともと本を読むことが好きだったこともあり、文章を読み込んだり自分で組み立てたりすることが好きでした。また、作文や感想文なども、書くのに時間がかかることは多くとも、苦を感じたことはほとんどありませんでした。

しかし、大学に入ってから、文章を書く課題に苦手意識を持つことが増えました。

それを自覚したのは 1 年の、学部の概論授業でのレポート課題です。課されたレポートは、授業の内容を受けて興味を持ったテーマについて調べて書くというものでした。取り上げる主題だけでなく構成なども自分で決めるという、これほど自由度が高い課題はこれが初めてでした。私は授業で触れられた「平等」という話題に興味を持ち、文献を探してレポートを書きました。しかし、何とか書き上げた文章は、一般論のような浅い問題を挙げることに留まるものでした。

今考えると、例えば特定の差別問題における平等を論じたり、ジェンダー間の平等に注目したりするなど、テーマをより絞り込み、具体化することが必要でした。そうすることで、「平等」という抽象的な概念をなんとなくで終わることを避けられたと思います。抽象的なことをつらつらと考えることも好きですが、それだけではいけないと分かった一件でした。このような考え方は自分にとって、大学に入るまで持っていなかった新しいものでした。

そして、これはレポートに限りません。これまで与えられた課題、答えのある問題に取り組んできましたが、一番難しいのは取り組む課題のテーマを決めることだということに大学生になりはじめて気づきました。そして同時に、私はそれがかなり苦手であることも気づいたのです。それを得意なことにしていくのは難しいことだと思いますが、具体化することを意識して上達していきたいです。そのためにも、普段から、人の意見をそのまま受け入れるのではなく、疑問を持つことから始めていこうと思います。